

せいけん
詩集

第五十三篇

作：近藤せいけん

「もったいない」

「もったいない もったいない」

と言い人ひと有あり 鉛筆は短みじかくなつても キヤツプをつけ 使つかい続つづける

「もったいない もったいない」

と言い人ひと有あり 部屋中へやじゅうちゆうの使つかわない 電氣でんきをこまめに消けして歩あるく

「もったいない もったいない」

買かい物ものにいつても 無駄むだな包装紙ほうさうしを省はぶき
大おおきな風呂敷ふうしきを持もち歩あるく

「もったいない もったいない」

時じ間かんがももつたいない
セツセと 一いち日にちに決きめたことをやり抜ぬく

「もったいない もったいない」

自じ分ぶんの人生じんせいの持もち時じ間かんを
「あなと何千時間なんせんじかん 何万時間なんまんじかん 何十万時間なんじゅうまんじかん」